

令和 6 年度入学生 K・W さん

## （１）税理士の道を目指した理由

元々は大学卒業後、異業種で働いていましたが、体調面などの理由で会計事務所に転職しようかと思ったときに、どうしても貸借対照表だとか損益計算書というものが必要になったのですが、全く当時は理解していませんでした。

興味を持ったのでやってみようと思い勉強をしたところ、以前の職種でも成績が上がりました。それならばもう少し勉強してみようかなと思ったのが最初のきっかけですね。そこで簿記 2 級から始めて、次に 1 級か税理士ということになり、それだったらせっかくだから税理士という形で目指した形になります。

## （２）平成国際大学大学院を選んだ理由

簿記論、財務諸表論、消費税、相続税と受かりまして、なかなか最後の 1 つが受かりませんでした。ちょっとなかなか以前の職場だと難しいのかなということで転職を考えた際に、「平成国際大学があるよ」と、近くの大宮の事務所の先輩（平成国際大学大学院修了生）からご紹介いただきました。

今の職場の協力もあり、通常の勤務時間では講義に間に合わないのですが、時間を調整していただいて通えるようになりました。

## （３）研究テーマ

私の研究テーマは、「相続税法における時価と総則 6 項の関係」です。

普段の売買ですと、実際に売ったり買ったり、物とかお金が動くので、時価というのが客観的に分かるのですが、相続税は、亡くなって、その時の財産がいくらなんて客観的に説明できないので、国税庁からの「財産評価基本通達」に基づき計算をします。

最近の有名な例ですと、「タワーマンション節税裁判」で、最上階を買って、相続税安くして、すぐ売っぱらって節税だと思っていた納税者が脱税ということで敗訴した裁判がありました。

仕事も今は資産税、相続税の計算などをやっていますので、結構実務に沿ったテーマですね。実務に活かせるものということで取り組んでいます。

## （４）学びの中で、最も印象に残っているエピソード

実は私が卒業した大学の法学部には卒論がなかったのです。なので、こういう論文を書くのが初めてで、今苦労しているところです。初めて論文を書くということで、自分が決めたテーマに沿って書き始めたので、これも印象に残っています。

## (5) 今後の目標

今後の目標としては、税理士資格を取ってからがスタートラインだと思っています。今の大学院での勉強も、そのスタートラインに立つための準備と考えています。

実際に税理士資格を取って、今後もより良いお客様へのご提案ですとか、色々な仕事をしていけたらと思っています。税理士の仕事だけではなくて、民法ですとか、他の法律も絡んでくるようなご相談もお客様からは様々受けますので、そういった色々なご相談をいただいた時に、法律的な見地からご提案やご相談に乗れるようになりたいと思っています。最初の会計事務所に入った時に、所長に「やっぱり税理士は民法とかが分かってないと」「税金だけ考えていくと他の法律で足をすくわれるよ」と言われたこともありますので、そういった点も踏まえて力をつけていきたいです。

## (6) 受験生へ一言

正直なところ、平成国際大学大学院の一番のメリットは立地だと思います。さいたま新都心という立地ですね。あと、金沢教授ですとか、他の教授のような、経験が豊富で適切な指導をしていただける、非常に丁寧なご指導をいただけるという点かなと思います。せっかく 2 年間通うのであれば、何のために通うのかという点で見ると、良い点があるかなと思います。働きながらというのはきついですが、予備校よりも大変ではないかもしれません。

また、2 年間で 30 単位という中で、単位の取り方もある程度柔軟で、自分の取りたい興味のある授業で卒業単位に届くというのも良いところかなと思います。興味を持ったら、ホームページや入試説明会などを見ていただけると、見方が変わってくるのかなと思います。最初の一步を踏み出すのが難しいですが、そこを踏み出せばまた違ってくるかなと思います。